あいのその　2023年7・8月号

「平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。」
（マタイによる福音書５章９節）

愛の園保育園　042-325-1045

「戦争」と「平和」のどちらがいいかと問われたら、多くの人が「平和」を望むでしょう。戦争の方が良いなどと言う人は、普通に考えていないと思います。しかし今もなお、私たちが生きている世界のあちこちで戦争は起きています。かつて日本が関わった戦争にしても、個人の意思とは関係なく国家の方針で戦場に動員され、多くの命が失われました。そのような状況の中で「平和を実現する」ということを実行することは並大抵のことではないと思います。もちろん、そのように生きた人々もいましたが、弾圧・迫害を受けました。つまりそうやって戦争に反対し、訴えた人々でさえも、厳密に言えばそれは「平和を実現した」わけではありません。大きな国家の動きの中では無力でしかなかった。実際に日本の教会も、戦中は国家に協力し、戦争に加担してしまっていた。それが現実だったのです。

平和を実現するということには、ひとりの人間の力を超えたものを感じざるを得ません。だから「平和を実現する人々は幸いである」と言われても、それを実現するというのは、国家やその指導者の問題であって、私たち個人レベルではほとんど関係のないことであると思える。また、私たちが戦争を身近に感じなくなってしまっているという意味で言えば、「平和を実現する」と言われても、ピンとこないのではないかと思います。

しかし、そんな私たちと同じく、このイエスの言葉を聞いていた弟子たちをはじめとする多くの人々もまた、決して何か特別な力を与えられていたのではありません。彼らはキリストの弟子として何も持たずに、つまり自分の力や蓄えによるのではなく、ただ神の恵みと力が与えられることを信じ、導きに身を委ねて世に遣わされていきました。そのようにして生きる者は、神から平和を与えられており、他人にもその平和を伝え、与えていくことができるというのです。

「平和を実現する者は幸いである。その人たちは、神の子と呼ばれる」とは、平和を実現する人が神の子であるというのではなく、神の子とされた私たちが、平和を実現するために用いられていくこと、それが、神が人間に対して真実に望んでいることなのです。

（牧師　西脇　正之）